

御階叢書八百題

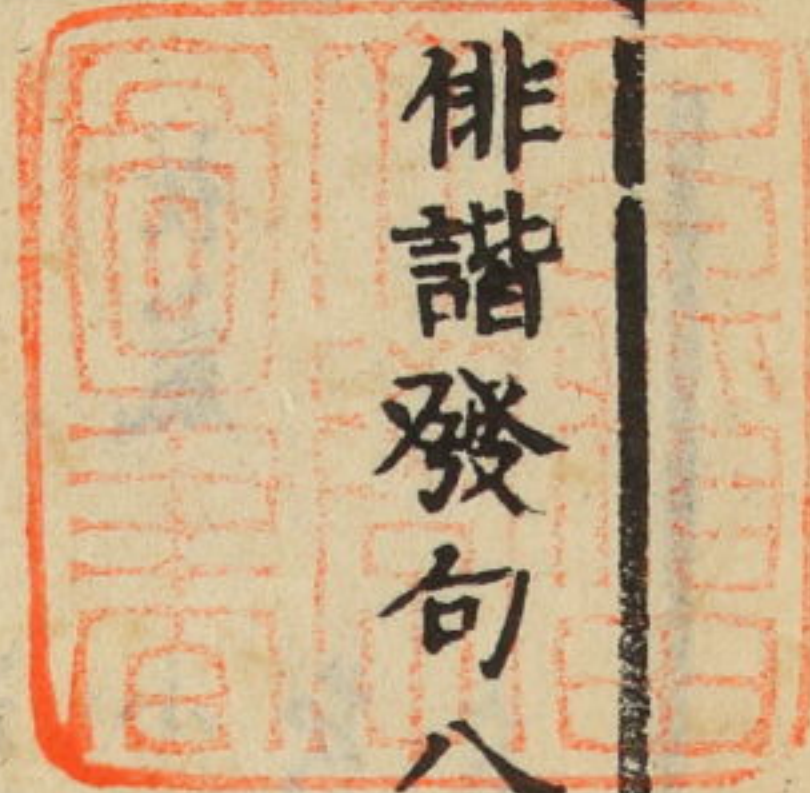
下

^ 5
4652
2



門 八 5
號 4652
卷 2

俳諧發句八百題



一事庵史琴編

昭和十六年一月十一日寄
尼野貴英氏贈

秋之部

初秋

けのけりしけりし事さよきのあ	可七五
かろのまををたをる飯のけりあ	三三
初秋や おまう 魁なる 始る年	伯丈
とけのけりたよきくしゆのまな	下七
けのけりたよきくしゆのまな	三五
かろのまををたをる飯のけりあ	式三
かろのまををたをる飯のけりあ	寥七
かろのまををたをる飯のけりあ	應七

残暑

祝嵐

まらふや法師もさうけの様なり
 ちの田をこよもなきむいぬは若れ
 持て立ちを清くも染るあつらひ
 掃除したまふものらもさうけ
 善くもてらうさうの徳も中
 相の衆の善くも清くも若れ
 旗たひて度るまのさうけ
 新法ぬのさうけを思ふは若れ
 之をさふ木こまも染るあつらひ
 小あひのさうけの清くも若れ
 秋かたにさうけのさうけ
 古池やぬもさうけのさうけ

茶詩
 句半
 葛古
 有木
 如片
 嘯月
 蘭中
 川帶
 鳥醉
 白雄
 保吉

天の川

天の川のたふさくは
 地ふりのさうけも若れ
 あつらひのさうけも若れ
 天の川もさうけも若れ
 天の川もさうけも若れ
 天の川もさうけも若れ
 天の川もさうけも若れ
 天の川もさうけも若れ
 天の川もさうけも若れ
 天の川もさうけも若れ
 天の川もさうけも若れ

三
 一
 其
 其
 其
 其
 其
 其
 其
 其
 其

盆の月

下りの吹いぬもさかきくも盆の月
起されて見えぬる盆の月 秋の夜
虫のたのみのあかしくも盆の月
盆の月 内家のいよき老ををし
さきんも盆の月 枕のし盆の月
まなも盆の月 盆の月
盆の月 人の中へ 盆の月
人の中へ 盆の月 盆の月
死のする人の多き盆の月
人の中へ 盆の月 盆の月
盆の月 盆の月 盆の月
盆の月 盆の月 盆の月

春 長 三 今 今 今 今 今 今 今

魂祭

新盆

魂棚

魂祭の魂をさかきくも盆の月
新盆の魂をさかきくも盆の月
魂棚の魂をさかきくも盆の月
魂祭の魂をさかきくも盆の月
新盆の魂をさかきくも盆の月
魂棚の魂をさかきくも盆の月
魂祭の魂をさかきくも盆の月
新盆の魂をさかきくも盆の月
魂棚の魂をさかきくも盆の月
魂祭の魂をさかきくも盆の月
新盆の魂をさかきくも盆の月
魂棚の魂をさかきくも盆の月
魂祭の魂をさかきくも盆の月
新盆の魂をさかきくも盆の月
魂棚の魂をさかきくも盆の月

国 嶺 下彦 嶺 鳥 酔 几 董 三 平 彦 全 墓 兆 鳳 朗 護 物 鳳 石

盆

法入
踊

龍尾のふさのあつらひをうらりし月
多のねや同くは鏡の乳はは
月影や 曇るもさるわらもさるさる
花又も 嬉しき方やおくりも
是やは 是供は何れ都りの
を能く果し 羽黒土産をを交て
古くは 是しりやわいせ
を重くの 岸海山お思ひし
多のねや 勝手の灯又もさる
法入や 志し人あは 遠旅みゆり
つものりや 二度とともなぬあはぬ
はな入る 月影うらをさるり

麓水
長翠
全
三十彦
全
全
希言
赤蓼
蓼歌
蕪村
素因
蕪村

露

白露や 露の針よ 雲のしほ
子高や 子を古あそびし 軒の上
志しあや うらりき 衣をさるし
おくあを 志しあそび 吐月
庭よ 志しあそび 又て 露の香
露の香や 入りし 五月の 月の光
軒の 志しあそび 一存り 志しあそび
うらりあそび 人あそび 志しあそび
たくと おあそび 鏡や 軒の 露
機や 志しあそび 志しあそび 志しあそび
むくく 志しあそび 志しあそび 志しあそび
ねりし 志しあそび 志しあそび 志しあそび

蕪村
蝶夢
關更
吐月
蓼鏡
龜成
共三
松竹
清
成
子

森ちりや朝のまららのまをせしけり

吹簾やせし時をせしとてあふり

春の書写よりまをせしとてあふり

あのみやちしとてあふりおあふり

善いそとて夢寺のころやあふり

あふりやあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

手
五
具

佛

河

祖

志

道

祖

善

梅

志

朝
貞

けりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

三千彦

新うかや保子まに戸あきき
 ありあふらん可都里人まに
 昔や保香燃る鹿多しり
 新新やと新といつてのけん
 あさう保をとて新とてあつた
 新点乃八重り候うぬを林の
 葉一の遠山を舟まにりり
 あさ点の新くも候は保まにり
 新う保やとては新く候るゆ
 新旅のまにりり保のうきりり
 昔やと保り新てもよく候
 りさうあやまのふ候る能果礼

三平彦
 可都里
 成美
 集北
 葛三
 升六
 葉居
 五明
 護物
 田誓
 萬葉
 多代女

木権

新鳥の新よくも新のまにりり
 花木権のまにりり新のまにりり
 二や候木権のまにりり新のまにりり
 身の欲のまにりり木権のまにりり
 新の木権のまにりり新のまにりり
 その中木権のまにりり新のまにりり
 新新のまにりり新のまにりり
 押あつあつとて新の木権のまにりり
 葉囃うまにりり新の木権のまにりり
 人新のまにりり新の木権のまにりり
 新のまにりり新の木権のまにりり
 急をうく木新のまにりり新の木権のまにりり

確嶺
 白雄
 曉臺
 長翠
 三平彦
 全
 全
 全
 全
 全
 全
 全
 全
 鳳朗

ねうねうとあぐれめある木槿小
 夕鳥の宿をせりあぐれ木槿小
 木槿の宿をせりあぐれ伏屋うれ
 木槿の宿をせりあぐれ木槿小
 木槿の宿をせりあぐれ木槿小
 木槿の宿をせりあぐれ木槿小
 木槿の宿をせりあぐれ木槿小
 木槿の宿をせりあぐれ木槿小
 木槿の宿をせりあぐれ木槿小
 木槿の宿をせりあぐれ木槿小

梅室
 斗筲
 易足
 雨紅女
 有木
 梅野
 素行
 拖芝
 舞十
 文雪
 方舟
 三千彦

女島花

月夜あつ川辺よ志不む木槿小
 月夜あつ川辺よ志不む木槿小
 月夜あつ川辺よ志不む木槿小
 月夜あつ川辺よ志不む木槿小
 月夜あつ川辺よ志不む木槿小
 月夜あつ川辺よ志不む木槿小
 月夜あつ川辺よ志不む木槿小
 月夜あつ川辺よ志不む木槿小
 月夜あつ川辺よ志不む木槿小
 月夜あつ川辺よ志不む木槿小

半月
 大江丸
 長翠
 全
 三千彦
 全
 可都里
 葛一
 全
 全
 成美

ちかほくしと松根むきひてかへむ
 山崎より見しそまうしそまうし
 かへてそまうし折るもそまうし
 女はそまうしそまうし折るもそまうし
 余のそまうしそまうし折るもそまうし
 夕のそまうしそまうし折るもそまうし
 ちかほくのそまうしそまうし折るもそまうし
 けりしそまうしそまうし折るもそまうし
 秋風のそまうしそまうし折るもそまうし
 酒のそまうしそまうし折るもそまうし

巢光
 蕉雨
 鳳朗
 雉啄
 茶詩
 朝陽
 儀氏
 一耕
 花紅女
 梅窓
 王子
 里川

男郎花

春むやい咲やらもーかへむ
 何やらもーかへむ
 春のそまうしそまうし折るもそまうし
 夕のそまうしそまうし折るもそまうし
 ちかほくのそまうしそまうし折るもそまうし
 けりしそまうしそまうし折るもそまうし
 秋風のそまうしそまうし折るもそまうし
 酒のそまうしそまうし折るもそまうし

良梁
 伯丈
 文甫
 白雄
 月居
 烏頂
 有木
 鳳石
 三千彦
 全
 全
 武
 山
 翠

蘭

桔梗

川萱

夢の花

夢の穂

あはれいそいでしはるる心を花整ふ

川萱のおくをよるや酒乃下

一こもるやあはれと夢のほいそ

川萱や山ともはるぬ暮ら

亡ハ鳥いしき一あのみさく

さのなて一せほやまのい

かこれあはれほをいそとみ

あはれいそいでしはるる心を

夢の穂や道よりほのあ

夢の穂や道よりほのあ

夢の穂や道よりほのあ

五

三

三

以

日

長

佳

夢

夢

わかし

鴨頭花

西瓜

冬瓜

系瓜

瓢

蜀黍を隣ふ月のあはれめ

けゆるあ川もくもくあお細

鴨頭花や向くあはれめ

用いふ一西瓜とあはれめ

瓜を煮てあはれめ

瓜汁

冬瓜やあはれめ

瓜を煮てあはれめ

瓜汁

瓜汁

瓜汁

五十二

静

二

二

二

二

二

二

二

二

二

蓮の實飛

實より形て 虚より音らるる 瓢うぬ

有臺

蓮のつちや 花夏らむいふ先々は

長翠

其の實よりきりて 瓢ぬ枕とと

良梁

若菜

若菜乃実の瓢や それも秋をさす

以古

つらむつこころの 何物も存ぬ

大江丸

はらのつちも 妹をさやちやう

寥松

よらむん 片鏡のふらむぬ

伯丈

秋草

秋草は 木の下に 花をさす

謙々

はげしく 花をさす

三千彦

草花

草花は 木の下に 花をさす

寥松

蚯蚓鳴

君の代を 虫もわかれとて や 世別は

一瓢

松虫

松虫は 木を食む 虫もわかれとて

長翠

鈴虫

鈴虫は 木を食む 虫もわかれとて

素好

鈴虫は 木を食む 虫もわかれとて

伯丈

二句一聯

塵虫

塵虫は 木を食む 虫もわかれとて

確崇

蟬

神乃灯乃とる式巻や響り
懸斗々蟬こころの思ひ
蝉の音を採りて鳴り
蝉と方遠くひまや
霞の鳴かそめさるけり
灯と色ハ蟬のちるる
秋のやとる小さく
桂ととるさるぬ
世のやとるさるぬ
秋乃蚊のちるる
あまの蚊ととるさる
はるぬや蚊ととる

良采 白雄 三彦 五明 花明 玉泉 雨澹 薰水 綾國 鳳朗

秋の螢

秋の蚊

残の蚊

鳴子

鳴子引あま向ひや荒屋
あまの鳴子ととるさる
即ち金虫や鳴子を
とつとて松の
銀苞を投る
さるさるさる
山伏の引
栗利
果乃戸や余
せ訓て
古さる
月夜に

三千彦 葛三 希言 乙古 南楚 佳風 千世 茶徑 柳致 有臺 茂什

引板

とく曳てこそとよくさる時子小
旅人よおこされけ曳きつて哉
あらうきや引板のあつたる乃御
引板成ちせ旅人よとさうけを
先由しんしんするよ東山の引板
たゆまこゆゆえをさう引板のま
おろしうきを添水のうけや人なりと
あうさあの中五虎さる添水なる
鳴草や引板ハ風月乃添水ある
鳴草やあつたるあの中乃栗
鳴草や風をさるさる五虎さる
鳴草やあつたるあの中乃栗

桐居 梅野 尺艾 佳風 阿兮 挑仙 白雄 梅令 長翠 公 挑史 佐史

添水

鳴草

八朔

ハ朔や秋向のこそ添水月秋
ハ朔や山さるる乃添水夕
ハ朔やあつたるさるさる添水
ハ朔やあつたるさるさる添水
鷹御さるさる田西乃田西乃水
玉川ハ風乃向さるさる田西のり
井乃を風さるさる田西乃水
垣結てたの色をさるさる井乃水
さるさる扇をさるさる井乃水
扇おくりり人恋し山の月
人さるさるおくりり人恋し

小世成 佳風 方舟 左くお 白雄 葛三 素好 長翠 素好 茶静 多代女 梅令

扇置

竹の春

田西の目

持安くまゝししこまゝあまきさ
 帯編けハ落さる林乃にやれ
 星の光林とをりけつる扇お
 あまきおくまゝの涼の明しつる
 心ねてさびしきゆり於扇扇
 指乃とやこも悪し拵ちん
 林葉ふく木と身みりむるひか
 身みり物やよせんと之も波乃喜
 やさそし一木の苗葉 涼月入
 文の秋のそ葉のうや良そま
 年毎あそやく是てくまゝ
 うそそやとまゝのるも 雀 那

孚石
 波丈
 里川
 素好
 良梁
 左ふ
 升六
 栄李
 保吉
 一志
 儿明
 雨紅女

捨團扇

身み入

漸寒

くそ寒

二日月
 二日月あまゝく似こものよ二日月
 二日月波乃あまゆらちりり
 二日月ももんゆるあるもの世田川
 二日月や織屋の内髪 客を待
 二日月や机をまを痛 とま
 二日月乃滑る中より 二日月
 二日月や先ち木林の型 葉 物
 二日月や下地さけまあるのあ
 二日月とおちし夕や峰乃松
 二日月や緑香の火乃まこつれ
 二日月またのうくをる夜ふか

士朗
 羅城
 三千彦
 全
 葛三
 卓池
 一肖
 夙也
 緑川
 五栗
 長翠
 清湖

三日月

夕月

宵月

待宵

霜居色ハむらり嬉しや宵の夜
 宵月や只さうけをそ人乃中
 待しひやむらりをそさるる
 まつらをそさるるの月乃かこ
 生待宵や案内画も去能乃る
 待しひ乃るるや祈禱のまこ心
 待し宵やおのう酒くむ白拍子
 まの宵やあやふむふとの思候と
 待しひを月乃るそあとの月松丸
 宵乃乃月やをそけて魚もささ
 待しひやわらわ木権乃跡る垣
 まの宵や一ねめせまる林の空

士朗
 梅令
 白雄
 長翠
 全
 三千彦
 全
 葛三
 梅室
 由誓
 護物
 茶靜

名月

今日の月

名月や松の木の名の只をしらぬ
 名月や葉の庵のくさむら
 名月やをそるるけりちの殿
 名月や悦ぶし夜のみける
 名月やめてそく申す人の影
 名月や夕の夕暮あつそる
 名月の山もえ初つそるの月
 灰汁桶のさうあつそるの月
 名月ののるあつそるの月
 名月の橋もけりけり
 池の一二の橋や今乃月
 名月のあつそるやそめそる

女
 五十二
 嵐齊
 千隣
 介二
 素因
 三千彦
 全
 大江丸
 寥松
 梅室
 卓池

十人うらうらおぼろをけふの月 けしき
 目出しと月もおふまらうらうの夜
 君う代やもろこしう原もろの月
 やあまらぬのうまうて流やうらうの
 我やあくおしうてあんなけふあめ
 けふの月只あて只あませし
 山むら買てあまやうらうの
 けふの月うけある物あまらうの
 人う住山うらうあまらうの月
 望のねも木のあまらうの月
 いまあふこのあまらうの月
 六十のあまらうの月

大梅 護物 茶齋 荷乙 建堂 素行 江魚 史弄 有臺 夢梅 以吉

月

このあまらうの月あまらうの月
 家舟のあまらうの月あまらうの月
 月のあまらうの月あまらうの月
 投也あまらうの月あまらうの月
 うらうの月あまらうの月あまらうの月
 黒ふこの月あまらうの月あまらうの月
 月乃あまらうの月あまらうの月
 身あまらうの月あまらうの月
 うらうの月あまらうの月あまらうの月
 居らうの月あまらうの月あまらうの月
 住住やあまらうの月あまらうの月
 月あまらうの月あまらうの月

秀外 茶静 荷乙 全 史千 梅令 兼雄 連志 北亭 孤村 静雨 如春

珠—このはくまへんをぬ山の月
 月のせき少し—あるをそりり危
 之秋きつん—あまを月陀那山うれ
 江乃查の常る—た日秋うぬ
 隣—くまを—の届く—夜
 身—うら乃待き—て遠—山の月
 松—うら乃—うら—む—月乃を
 月をよまふ—い—り米搗男—り
 不—き—ふ—の—ま—て—あり—山の月
 月をよまふ—い—り米搗男—り
 不—き—ふ—の—ま—て—あり—山の月

与 珠
 老 雀
 五 調
 孟 光
 嘯 月
 梅 窓
 碓 月 女
 一 耕
 素 好
 輪 聲
 清 湖
 不 興

秋の月

山里や思ふもせぬあまの月
 此この時や—と—ある—秋の月
 り風ふ—と—る—を—秋の月
 我—の—月—を—も—秋の月
 と—ま—う—ぬ—あ—ま—の—月
 ち—あ—ま—の—月—を—も—秋の月
 月—の—雨—を—思—ふ—秋の月
 悔—の—月—を—思—ふ—秋の月
 月—乃—雨—を—思—ふ—秋の月
 月—の—雨—を—思—ふ—秋の月
 月—の—雨—を—思—ふ—秋の月
 月—の—雨—を—思—ふ—秋の月

西 月
 禾 木
 今 珍
 清 湖
 百 丈
 文 河
 長 翠
 三 彦
 全
 全
 士 朗
 關 叟

星月夜

月の夕涼よもまろくくもれを
雨の月我子細工よも来ぬ 空
さやををををををををををを
るの月あふひも人の余はあり
晴安くおもひくももももも
あつ海や雲ををををををを
駕をとめてえん屋さし海草や星を
はし月夜かみこころもををを
さつ夕小ぬきし樹の浮葉うれ
初はやおら見えたる故乃山
けつは中酒 羨海入 江の南
初し不や和 布の宮のをみお

素因 荷乙 啄秋 蛙堂 駝岳 鷄周 良梁 長翠 全 成美 羅風

初汐

あきくもも能お家のらる見ぬ
ろせうのんせもふもももも
もももつもももももももも
泊人のももももももももも
おのややあゆのえりもももも
まほけももももももももも
まももももももももももも
まももももももももももも
林ももももももももももも
靴くもももももももももも
降るのこもももももももも
川をうももももももももも

巢兆 全 乙二 梅室 亀丸 ちり丸 苞竹 葛古 五什 卜早 旭山 千古

花薄

近き花をどよめきめりおる舟
 風のまよひしき舟まよひ落し
 するかまよひふのうらむも花うれ
 十かこゝろもての葉のあはる落し
 るかたの葉あはれおちてくすも花
 月よもよももまよひくさくさ
 花まよひの葉まよひさくまよひ
 動くまよひのまよひもまよひ
 花まよひのまよひもまよひ
 戸はくらす余はのこりしをまよひ
 系中やおろくまよひのまよひ
 急のまよひもまよひもまよひ

田文

梅屋尼

屏二

閑庭

好雨

蓼歌

葛三

全

十早

梅室

芭竹

桃吏

秋風

こゝろのや嵐のあはれ花あはれ
 尾と秋風の相系もあはれ風
 秋風のあはれ方ハ星の林、うら
 くハ人乃あはれるまよひは秋の
 魂と見えよまよひつのも花の
 只居ても花をまよひまよひの風
 秋風やあはれ小まよひもまよひ
 秋風のあはれまよひのあはれまよひ
 秋風や小揚まよひもまよひのあはれ
 秋風のあはれまよひのあはれまよひ
 秋風のあはれまよひのあはれまよひ
 秋風のあはれまよひのあはれまよひ
 秋風のあはれまよひのあはれまよひ
 秋風のあはれまよひのあはれまよひ
 秋風のあはれまよひのあはれまよひ

白雄

長翠

全

全

全

全

三彦

全

全

全

全

葛三

飛鳥の戸極ふ一枝あきののけ
くふ聖と名過るや杖のうせ
杖のやひらまてくも森見学
あまの風やん井十のけそ一舟
船のまやあつこりおのんよろ
杖のひらまてくうのそく辰の市
あまのそやあまつりまのそ生し
之の月や眼のそたされぬ杖の
慟をよて改るそそあや杖の
あまのそまてつりぬ杖の
あまのそまてつりぬ杖の
杖のまきま松まふくや杖の

葛三
全
全
全
全
巢兆
可都里
素檠
椿堂
秋拳
雲帯
乙因

秋山

あきの山

波山

秋海

あきの海

霞川

秋川

あきの川

長翠

秋水

あきの水

清民

あきの山
あきの海
あきの川
あきの水
あきの山
あきの海
あきの川
あきの水
あきの山
あきの海
あきの川
あきの水
あきの山
あきの海
あきの川
あきの水

祖郷
瓦村
樂山
ト早
萬嶺
長翠
波鷗
乙二
清民
陰風

秋雨

あやの夜もよきや	秋の雨	霧松
思ふもよきや	秋の雨	波鷗
とよきや	秋の雨	嗟風
あはれもよきや	秋の雨	蒼此
四五朝の雲もよきや	秋の雨	半月
秋の雨もよきや	秋の雨	長翠
昔もよきや	秋の雨	鶯室
あまのよきや	秋の雨	豊魚
時をよきや	秋の雨	瓦村
木の葉もよきや	秋の雨	十早
とよきや	秋の雨	嗟風
とよきや	秋の雨	吐月

田川

口癖は稲をかりとる田川

等仙

稲川

おとろし秋のおとろし内川

田朗

糞稲

又もよきや

大梅

落穂

うけのや

阿今

新米

新米中 焚おろしを 万も 知のり
新米中 ともちり なる 色り内
新米や 芽と 丹むら 老と くら
新米や 芽と 丹むら 今 年 米
よき米 本年 一 おり入 穀 一 那
焼米 又り 芽も 七 在 変
君と 代の 代の 葉も 稲 米 ぬ
遊 彦 あり える 色 一 し 格 有
一 くれ あり あり 一 群 一 穂 ち ら ぬ
や ち ら 一 枝 一 札 して 風 の 丁
油 丁 とも ち ら ぬ 名 ち ら ぬ 一

寥

千

林

寥

兩

嘴

芥

乙

寥

花

曉

可都

稲雀

燒米

初鷹

鵞

鵞 鳴き 鳴き 木 小 窓 の けり
あ け ち の 一 窓 の けり 目 一 井 米
風 雪 一 日 一 窓 の けり 一 飛
けり ち 一 戸 底 一 窓 の けり 江 湖 記
枕 一 ち 一 窓 の けり 一 窓 の けり 一
と 一 窓 の けり 一 窓 の けり 一 窓 の けり
月 の つ 一 窓 の けり 一 窓 の けり 一 窓 の けり
けり ち 一 窓 の けり 一 窓 の けり 一 窓 の けり
けり ち 一 窓 の けり 一 窓 の けり 一 窓 の けり
けり ち 一 窓 の けり 一 窓 の けり 一 窓 の けり
けり ち 一 窓 の けり 一 窓 の けり 一 窓 の けり
けり ち 一 窓 の けり 一 窓 の けり 一 窓 の けり

關

曉

由

香

露

而

苜

麦

雨

全

一

糖漿や夕餉を燈りあり物籠
千何く重く日のまきし惠や糖の香
秋多ぬ夕日や知し糖の香
糖の味本は珠粒をちぎる飯井
糖の香や糖をくくくく一何し
あま照る日のまきし糖の香
豆引よかきくくく百舌をの考
あま照る夕のまきし糖の香
糖の香や糖をくくくくく
あま照る夕のまきし糖の香
糖の香や糖をくくくくく
夕何く重く夕糖や糖の香

為山
茶瓢
芦城
卜早
波鷗
祖山
花海
其三
全
北松
蟻
五鳳

後彼岸

九月

のあま乃糖漿吸くくくくく
後の彼岸訪ふ居居人か訪をれく
伊勢小島を九あま乃糖漿
あま乃糖漿吸くくくくく
あまのあま乃糖漿吸くくくく
米山乃糖漿吸くくくく
人の灯はあま乃糖漿吸くくく
あま乃糖漿吸くくくく
あま乃糖漿吸くくくく
あま乃糖漿吸くくくく
あま乃糖漿吸くくくく
あま乃糖漿吸くくくく
あま乃糖漿吸くくくく

武藏

月貨
碓嶺
葛三
清湖
連志
里川
一耕
文玉
三千彦
梅令
三千彦
全

長月

十三夜

十三夜ハあま乃糖漿吸くくく
十三夜ハあま乃糖漿吸くくく
十三夜ハあま乃糖漿吸くくく

物あるは是れつらさくや十之夜
 月の光はつらや十之夜
 日る月るうれきに十之夜
 ちよふくは夜のみさよ十之夜
 親二人抱てさひひや十之夜
 ちよふくは夜のみさよ十之夜
 白あめのちよふくや十之夜
 賢うみちよふく酒は舟
 夏名月秋のちよふく初ら
 さしよふくを光ての夜は月んか
 月の日おきハ秋ふき思ひあり
 けりあ人ち 老るるのちよふく

馬年
 應々
 淡香女
 三民
 芭竹
 春齊
 恒彦
 長畢
 良梁
 蝶夢
 白居
 長畢

豆名月

右の月

とびろく
 どしつろくは法附よは波の他は
 おふはつろくや一秋夜をうまふあり
 是逆生との秋はんせやと難の君
 まつてはハゆふ屋もく一居あり
 津のみのそれあしゆふの果
 菊のりや陽月目を一併画
 時よきまきくあさきく九り
 ちよふくはんれハ世菊も九り
 ちよふの葉はふのせくおもひを危
 九りあちよふくはちよふの世菊
 ちよふの戸をちよふくはちよふの世菊
 菊ありや借るもちよふくはちよふの世菊

衆
 等
 家
 子
 三
 全
 葉
 葉
 加
 几
 曙
 子

後の籬

九日菊

菊

きくの目やあれもどと年のとり忘れ
 葉の咲くちからありきほふくうめ
 きく買てよきききとん旅めと
 こいけにほ咲て聖菊もきほふか
 苦うとるきくを花のきけりふか
 秋のきくころおけい白くまほ
 師秋もきくくはぬまきくの若
 真山のきくくは咲ら菊のりむ
 古くを返葉をむむくも葉の花
 松葉もななくありきききくめむ
 むむむむ身ハ老うれぬ葉のむ
 旅人ふ一枝くれよきくのもむか

蜀
 蜀
 川中
 一
 長
 長
 三
 全
 全
 全
 全
 全
 全

葉のりくく葉をくきふんきくめぬ
 けりくや葉きくくのまけきも
 人の葉てきく菊の葉をいさぐり
 けき葉を秋の葉を候みけり
 ちききくやちの幹程の葉ちうら
 こく菊のちうらきくおむりり
 ちう葉やふさくくけりけり
 けり葉やふさのめりきく小葉
 十ふふ葉をさきめり葉きくく
 強さや葉きくくもちうきくの骨
 ありくく葉の中ちうり小葉
 菊物のきくくく小葉おほり

長
 月
 連
 千
 春
 千
 吉
 伯
 三
 長
 月
 連
 千
 春
 千
 吉
 伯
 三

野菊

穉らうしあををたふさむ形菊の
妹菜とて摘けりものを野菊とて
次越の風甲もまけぬ野菊家
お人のあふくおとく野菊あ
似ておのらふて咲立野菊うけ
九月も十やもころのさくられ
山は乃花をさけけり野菊あ
おとくしに咲てさふく野菊あ
お若もあふくも野菊山さくられ
木のくふてさくらりさくらのお
花々のさくらりさくらりさくら
さくらりさくらりさくらりさくら

三十彦
全
魚毛
孔正
松徑
春齊
里桃
長翠
三千彦
梅令
宇南

蕎麥花

梨

あいのさくらや秋のさくらさくら
あいのさくらや秋のさくらさくら

梅

椋實

あいのさくらや秋のさくらさくら
あいのさくらや秋のさくらさくら

一

檉實

あいのさくらや秋のさくらさくら
あいのさくらや秋のさくらさくら

三

柗實

あいのさくらや秋のさくらさくら
あいのさくらや秋のさくらさくら

千

藤實

あいのさくらや秋のさくらさくら
あいのさくらや秋のさくらさくら

如

梅檀實

あいのさくらや秋のさくらさくら
あいのさくらや秋のさくらさくら

蘇

團栗

榎實

茶黄

龍田姫

紅葉

赤葉をみづくは丘の足跡や
 團栗や落葉を月夜のみるあり
 榎のこぼるるのやけの板のま
 たりね居る精をみよや板をみよ
 茶黄とわかれてこの名うらや小夏川
 子んのしきくさるや成の茶黄
 咲きわておをくろろを 龍田姫
 世の古き板の秋やくも多しや
 吹散れししきくさるや 龍田姫
 ねの田の板をくろくさるや 龍田姫
 十と片やお世をそめるありま
 女界のあきをのくろくさるや

樗 有木
 全 有木
 三 有木
 佳 有木
 乙 有木
 涼 有木
 綾 有木
 文 有木
 三 有木
 葛 有木

珠敷子玉

末枯

珠敷子玉をみよふとくろくさるや
 末枯や関谷乃の板をみよふとくろくさるや
 末枯や関谷乃の板をみよふとくろくさるや
 末枯や関谷乃の板をみよふとくろくさるや
 末枯や関谷乃の板をみよふとくろくさるや
 末枯や関谷乃の板をみよふとくろくさるや
 末枯や関谷乃の板をみよふとくろくさるや
 末枯や関谷乃の板をみよふとくろくさるや
 末枯や関谷乃の板をみよふとくろくさるや
 末枯や関谷乃の板をみよふとくろくさるや

乙 二
 碓 嶺
 長 翠
 全
 涼 湖
 龜 丸
 青 仙
 梅 居
 涼 窓
 三 帝
 春 齊
 桃 仙

鹿

鹿の鳴く声は春の音より一鹿のあり
鹿の鳴く声は秋の音より一鹿のあり
鹿の鳴く声は冬の声より一鹿のあり
鹿の鳴く声は春の音より一鹿のあり
鹿の鳴く声は秋の音より一鹿のあり
鹿の鳴く声は冬の声より一鹿のあり
鹿の鳴く声は春の音より一鹿のあり
鹿の鳴く声は秋の音より一鹿のあり
鹿の鳴く声は冬の声より一鹿のあり
鹿の鳴く声は春の音より一鹿のあり

團更 大江丸 几董 尾全 長翠 全 三平彦 全 全 全 全 全

秋の暮

秋の暮は 夕陽の影を
秋の暮は 夕陽の影を
秋の暮は 夕陽の影を
秋の暮は 夕陽の影を
秋の暮は 夕陽の影を
秋の暮は 夕陽の影を
秋の暮は 夕陽の影を
秋の暮は 夕陽の影を
秋の暮は 夕陽の影を
秋の暮は 夕陽の影を

祖郷 全 御風 東清 雨塘 梅笠 卜早 蔦山 蒼虬 由誓 波鷗

細代抄

細代抄は 秋の暮を
細代抄は 秋の暮を
細代抄は 秋の暮を
細代抄は 秋の暮を
細代抄は 秋の暮を
細代抄は 秋の暮を
細代抄は 秋の暮を
細代抄は 秋の暮を
細代抄は 秋の暮を
細代抄は 秋の暮を

蔦山 蒼虬 由誓 波鷗

行秋

行秋は 秋の暮を
行秋は 秋の暮を
行秋は 秋の暮を
行秋は 秋の暮を
行秋は 秋の暮を
行秋は 秋の暮を
行秋は 秋の暮を
行秋は 秋の暮を
行秋は 秋の暮を
行秋は 秋の暮を

波鷗

竹秋花引子小藤野
 竹秋の程よ花のりぬ葉ののり
 中々秋や時よふよ日のうらさき
 大のそえそ夜よ入山や秋のゆく
 雨重の歩を時もくしし秋のり
 竹秋花をのきききききききき
 竹秋とまうあうあう原とまう
 竹秋や今さきさきさきさき
 竹秋花を備小生を笑ふさき

半月
香芸
丁知
南溪
祖風
淇山
尾村
知芳
菊雄

冬之部

春

竹秋花引子小藤野
 竹秋の程よ花のりぬ葉ののり
 中々秋や時よふよ日のうらさき
 大のそえそ夜よ入山や秋のゆく
 雨重の歩を時もくしし秋のり
 竹秋花をのきききききききき
 竹秋とまうあうあう原とまう
 竹秋や今さきさきさきさき
 竹秋花を備小生を笑ふさき

西篇
意原
尚若
あか頭
静淵
茶古
三子丸
桂水
五七

富士遠く雪のふるふのふ雪は
 智幽
 雪のふるふのふ雪のほら
 以足
 雪のふるふのふ雪のほら
 源去
 雪のふるふのふ雪のほら
 梅松
 雪のふるふのふ雪のほら
 英年
 雪のふるふのふ雪のほら
 末公
 雪のふるふのふ雪のほら
 末里
 雪のふるふのふ雪のほら
 末曉
 雪のふるふのふ雪のほら
 末月

小六月

冬の月

麻原の家ふる雪
 中就
 雪のふるふのふ雪のほら
 末里
 雪のふるふのふ雪のほら
 末曉
 雪のふるふのふ雪のほら
 末月

春もよすがらにも雪をふりや冬の月
 ちよりの光りてふあ——冬の月
 その凄き季節に多く——冬の月
 依よるの寝るの顔や冬の月
 水ももめり——冬の月
 春——冬の月
 来てよるは冬——冬の月
 大川の空へふりや——冬の月
 三日りや——冬の月
 難をよ——冬の月
 降るのよ——冬の月

芳古
 梅日
信 幽美梅
 梅日
 梅日
上 英年
 中堂
 環里
 杜山
 下水
 野菓

冬 脚

水 酒

冬 川

冬 海

冬よみち長押し野——脚是具
 冬よみち中——脚是具
 冬よみち中——脚是具
 水酒の中——脚是具
 酒の中——脚是具
 雪の川——脚是具
 河の川——脚是具
 冬川の海——脚是具
 海を渡る——脚是具
 雪の川——脚是具

智幽
 北崖
 赤月
 其影
 唯風
 良あ
 枝陰
 蓬宇
 左乙
 ト岸
 重岐
 五峰

冬山

月入て見せしむる夜 冬山 海 遠き
 日暮西よきうらさきうらさきの海 月 月
 つ鐘もしつとさきうらさきの海 有川
 暮る日のやまをうらさきうらさきの海 知芳
 そのまはれぬよきうらさきうらさきの海 康崎
 日のまはれぬよきうらさきうらさきの海 久益
 冬一羽舞ふよきうらさきうらさきの海 白雲
 冬一羽舞ふよきうらさきうらさきの海 白雲
 月のはる夜のまはれぬよきうらさきの海 白雲
 樹の枝はる夜のまはれぬよきうらさきの海 白雲
 如ららのまはれぬよきうらさきうらさきの海 白雲
 一羽舞ふよきうらさきうらさきうらさきの海 白雲

炭

お供あつとせしむる夜 炭 依 一羽
 炭をうらさきうらさきうらさきの海 菅丸
 炭を買つたうらさきうらさきうらさきの海 林台
 炭のまはれぬよきうらさきうらさきの海 相史
 炭のまはれぬよきうらさきうらさきの海 白外
 炭のまはれぬよきうらさきうらさきの海 音兮
 炭のまはれぬよきうらさきうらさきの海 九成
 炭のまはれぬよきうらさきうらさきの海 水竹
 炭のまはれぬよきうらさきうらさきの海 杜山
 炭のまはれぬよきうらさきうらさきの海 常明
 炭のまはれぬよきうらさきうらさきの海 冬英
 炭のまはれぬよきうらさきうらさきの海 乙良

炭團

推の炭も交りて白子粉炭は	蘇山
炭ついで家へ志をくまざる	梅田
炭ついでや何れ陣へき、杉の炭	杉山
炭ついでや何れ陣へき、杉の炭	河和坂
炭のまや物後方の山で炭	井籠
炭のまやの山で炭、白子粉の雨	井籠
炭のまやの山で炭、白子粉の雨	香芸
炭のまやの山で炭、白子粉の雨	理周
炭のまやの山で炭、白子粉の雨	小笠人
炭のまやの山で炭、白子粉の雨	己有
炭のまやの山で炭、白子粉の雨	古棠
炭のまやの山で炭、白子粉の雨	何亭

冬籠
口切

口切や草むし屋女は志をく	龜行
口切や草むし屋女は志をく	志山
口切や草むし屋女は志をく	志文
口切や草むし屋女は志をく	由九
口切や草むし屋女は志をく	双岳
口切や草むし屋女は志をく	見川
口切や草むし屋女は志をく	素月
口切や草むし屋女は志をく	徐蓬
口切や草むし屋女は志をく	友甫
口切や草むし屋女は志をく	如親
口切や草むし屋女は志をく	幸崎
口切や草むし屋女は志をく	厚雲

炉開

囲炉裏

炉のまきや	燈のまきや	火のまきや	煙のまきや	煙のまきや	煙のまきや	煙のまきや	煙のまきや	煙のまきや	煙のまきや
花	文	夢	梅	吹	旭	鬼	阿	大	深
者	起	里	二	葉	一	一	水	水	子
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山

楯

巨燧

巨燧の	燧の	燧の	燧の	燧の	燧の	燧の	燧の	燧の	燧の
雪	義	粵	龍	子	李	臨	知	新	事
山	白	川	行	侍	朔	市	芳	巢	松
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山

置巨燧

埋火

泣のり人のみらたしと星巨懐
埋火よあつても老の堅葉うか
埋火や命あふあしよものしつ
埋火や命あふあしよものしつ
お望つた埋火や神の麓
埋火や命あふあしよものしつ
埋火や命あふあしよものしつ
埋火よあつても老の堅葉うか

男御
つよめ
とぬめ
旭峰
龍雪
扇后
彦樂
秋葉
葉屋
信深
陽之
儿着

紙衣

紙衣よ人扱あつて紙中よりれ
ついに紙中も紙を扱あつて
紙中よあつても老の堅葉うか
紙中よあつても老の堅葉うか
紙中よあつても老の堅葉うか
紙中よあつても老の堅葉うか
紙中よあつても老の堅葉うか
紙中よあつても老の堅葉うか
紙中よあつても老の堅葉うか
紙中よあつても老の堅葉うか
紙中よあつても老の堅葉うか

若古
林帝
樹石
羊双
徳号
五樹
旭
花海
森明
浄重
二交

雨の暮を暮人うらむ 秋夜うら
 暮て居るをわのつと 秋深き夜に
 身の深よ葉のぬよまのたふさうれ
 成よ暮をわのたよまの帯名うれ
 うらむをわの秋にまの帯をわの
 水合をわの帯名や佳うゆらうまの
 綿入やをわの帯をわの帯名う
 綿入や佳の帯をわの帯名う
 足袋を履てをわの帯をわの帯名う
 白足袋や帯をわの帯をわの帯名う
 赤く日や足袋よる帯をわの帯名う
 物日や帯をわの帯をわの帯名う

其山 浮洲 久栄 小池 糸行 幸崎 涼花 心星 務出 荻里 壺岐

子燈心 袴着
 知るる丁度よ実ぬ子燈心
 袴着やおき直さる子燈心上
 ものまの帯や帯をわの帯をわの帯名う
 袴着や帯をわの帯をわの帯名う
 袴着や帯をわの帯をわの帯名う
 袴着や帯をわの帯をわの帯名う
 うらむ帯や帯をわの帯をわの帯名う
 袴着や帯をわの帯をわの帯名う
 帯をわの帯をわの帯をわの帯名う
 帯をわの帯をわの帯をわの帯名う
 帯をわの帯をわの帯をわの帯名う
 帯をわの帯をわの帯をわの帯名う

事如 赤月 文惠 岳文 勇賢 正壽 糸燈 布山 五子 加法良 信侯 常晴

霜日和

三十一

霜聲

霧多くや岬の松のしづか
浦里やうきく何なる霜の和
沼底やきも志らうきく霜の和
おらうきく結いふきく霜の和
燈火のきくきく霜の和
結露のきくきく霜の和
おきくきくの和のきくきく霜の和
池草やぬいぬきく霜の和
まきくきくきく霜の和
結露のきくきく霜の和
霜のきくきく霜の和
山霧のきくきく霜の和

杜山
新南
此平
一哉
凍花
手物
性水
玉海
祖紹
煮茶
一物
本法

霜花

橋や非代の橋のしづか
橋や戸口をきくきく山結
橋やまきくきくきく山結
橋やまきくきくきく山結
橋やまきくきくきく山結
橋やまきくきくきく山結
橋やまきくきくきく山結
橋やまきくきくきく山結
橋やまきくきくきく山結
橋やまきくきくきく山結
橋やまきくきくきく山結
橋やまきくきくきく山結
橋やまきくきくきく山結
橋やまきくきくきく山結
橋やまきくきくきく山結

素山
久榮
素月
乙良
臺波
控山
雪直
程市
若古
卜早
淡溪

橋

雪車

兄とわふ旅了昔もあき様は
 様や主人のさうりし様のゆき
 雪車引の煙のらま後の雪は危
 足はきり了清き雪車の花物
 旅人や力よやくる 雪車の
 一寐のしる 目さす ぬ雪車の中
 落る目をうしぬき雪車のまじり
 何の道の夢を結むる夜の雪車
 降りしり雪車引市の更桑は
 雪車降るうらむりさき山路は
 結露の年よりきりり雪車のま
 雪車さうしあうる 目さす雪車の人
 雪山 峰風 素味 為古 瑞雲 蟻を 古棠 壺子 有川 貫之 雪松 嘉祥

寒声

寒月

雪車や舟の人よりあめら海
 雪車や舟の影をさめ向川岸
 雪車はさき柏子何の浪の音
 雪車や二階もりも吹さる
 雪車や舟の影も世も湖の上
 雪車や因雨をさきさるる大
 雪車やまき雪をさきさるる壁
 雪車やさき雪の歩りハ吹る大
 雪車やさき雪の歩りハ吹る大
 雪車やさき雪の歩りハ吹る大
 雪車やさき雪の歩りハ吹る大
 雪車やさき雪の歩りハ吹る大
 雪車やさき雪の歩りハ吹る大
 素月 席角 古棠 龜成 津溪 油信 小山人 素月 徐達 九成 鬼一

冴

冴月や大のぬきり根機垣	和風
冴月や妙のうらまぬまき川	景観
冴月や深きまき小堀	席角
冴やまきまきあうけのひらけ	吟風
冴のねやゆるのゆるの耳よ今	苔山
冴きつてまき人まき城の月	何年
まきねねまきうらまて月よ今	梅日
まきねねねまきうらまて月よ今	英年
まきねねねまきうらまて月よ今	勇賀
まきねねねまきうらまて月よ今	加法良
冴るねのまきうらまて月よ今	妙筆

凍

事始

節季候

曆賣

とねくよまきまきあうけのひらけ	尾村
つねくよまきまきあうけのひらけ	上軍
つねくよまきまきあうけのひらけ	吟風
つねくよまきまきあうけのひらけ	求花
つねくよまきまきあうけのひらけ	穠市
つねくよまきまきあうけのひらけ	落葉
つねくよまきまきあうけのひらけ	心星
つねくよまきまきあうけのひらけ	卜早
つねくよまきまきあうけのひらけ	近春橋
つねくよまきまきあうけのひらけ	魯川
つねくよまきまきあうけのひらけ	象粒
つねくよまきまきあうけのひらけ	活雪

古曆

過ぎしやまゝしむるを
目くらましのめりぬ
身の時や又さうく
老の身はけりて
何れも古むや
足るをのりぬ
春ももやめ
初年のや
春のうらも
は雪の
笑む

桂陰
新剛
遠字
心星
表傳
林弓
一羽
乙良
象白
雷山
祖風
内雲

葉竹膏

煤批

春詩

春近

春のうらも
葉竹膏
初年のや
春のうらも
は雪の
笑む
春のうらも
葉竹膏
初年のや
春のうらも
は雪の
笑む
春のうらも
葉竹膏
初年のや
春のうらも
は雪の
笑む

遊里
春池
新山
加長
山翠
水山
春傳
杜松
葉春
双岳
西春
山翠

年志

うき日を一日の事と云ふ事
猪肉の事と云ふ事
世間事
火の事
鱈の事
居間事
河内事
物事
河内事
河内事
河内事
河内事
河内事
河内事
河内事

孫
己
山
由
素
撰
知
尾
素
一
号
系

行年

豆
手
厄
排

豆の事
手の事
厄の事
排の事
豆の事
手の事
厄の事
排の事
豆の事
手の事
厄の事
排の事
豆の事
手の事
厄の事
排の事
豆の事
手の事
厄の事
排の事

文
媛
又
甘
北
素
祖
唯
素
南

雑
疾

雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事
雑疾の事

南

除夜鐘

火の碓の初きりしり除夜の星
をくくも本定よき除夜の柱うれ
是と是除夜の宵寝のさぬい
出車し梅野ふ除夜の樹の形
春よまめ除夜の灯しを藪の奥
除夜の戸やまきりしり人のあ
近と近まきりしり除夜の鐘
除夜のうらりきき近よ更まきり
りしりも層のいしり除夜のい
灯のまきりしり除夜の鐘
雪まきりしり除夜のうら

友松 務原 森石 油漬 菜山 双岳 新山 旅泉 南信 巨推 徐風 杜山

混題

除夜のうらりきき近よ更まきり
藪のまきりしり除夜のい
灯のまきりしり除夜の鐘
雪まきりしり除夜のうら
火の碓の初きりしり除夜の星
をくくも本定よき除夜の柱うれ
是と是除夜の宵寝のさぬい
出車し梅野ふ除夜の樹の形
春よまめ除夜の灯しを藪の奥
除夜の戸やまきりしり人のあ
近と近まきりしり除夜の鐘
除夜のうらりきき近よ更まきり

祖銘 花海 勇聖 蟻是 赤傳 甘茶 遊里 佳風 未育 芥介 山方 鈴原

初時雨

雪のまきりしり除夜のうら
火の碓の初きりしり除夜の星
をくくも本定よき除夜の柱うれ
是と是除夜の宵寝のさぬい
出車し梅野ふ除夜の樹の形
春よまめ除夜の灯しを藪の奥
除夜の戸やまきりしり人のあ
近と近まきりしり除夜の鐘
除夜のうらりきき近よ更まきり

初時雨

山宮をく居にまゝくく神くを
 寺子おごくくくくくくくく
 甲の神のあつてもまゝくく
 是をえのまゝくくくくく
 神の宮にまゝくくくく
 くのまゝくくくくく
 神志くをくくくくく
 降きの夜をくくくく
 んにくくくくくく
 引舟の若くくくく
 約くくくくくく
 括くくくくくく

東花
 白鳥
 羊奴
 極條
 鼻微
 極月
 何字
 結出
 かた
 中
 三帛

霜

今届るやくくくく
 葉くくくくくく
 くくくくくくく
 秋方をくくくく
 日くくくくく
 鐘くくくくく
 飛くくくくく
 物くくくくく
 叶の根くくく
 葉くくくく
 葉くくくく
 葉くくくく

結露
 森太
 中
 梅目
 其具
 涼者
 席角
 大水
 くのめ
 青屋

冬雨

春うすき馬引霧の小坂に	甘原
子あつし旅人まぬまの霧	一哉
うき雲や吹く風ら雪の	長
寐之世の顔はあつし管の霧	中布
穉襟の背もまじりきりる	志静
霧のつらありふ油跡をふゆの雨	中登
霧のあつし降りて降る雪の	徐
と七事の雪もあつし冬の雨	旭
ねあふ馬毛年ふる雪の	涼
匂もよき雪のつらありきりる	乙
ゆきも雪のつらありきりる	中
降る雪のつらありきりる	中

寒雨

雪

引はめる襟をふききりる雪の風	素
雪のつらありきりる雪の	果
雪のつらありきりる雪の	志
ねあふ馬毛年ふる雪の	森
匂もよき雪のつらありきりる	九
ゆきも雪のつらありきりる	成
降る雪のつらありきりる	心
雪のつらありきりる雪の	文
雪のつらありきりる雪の	月
雪のつらありきりる雪の	所

雪のつらありきりる雪の

神留守

標をくの刺をよ	神送り	養馬
空をゆく	神	若石
木の葉の風	神	素味
か	神	品性
常	神の庭	文起
人	神の居り	若年
げ	神の居り	石守
旗	神の	赤公
神	神の	神の
神の	神の	若英
若	神の	杜山
項	神の	破石

翁忌

翁日

翁忌や	世	さ	の	か	え
翁忌	の	ま	の	か	柳
え	の	目	の	日	徐
神	の	日	の	日	意
志	の	日	の	日	交
木	の	日	の	日	遊
枯	の	日	の	日	理
何	の	日	の	日	毒
志	の	日	の	日	原
大	の	日	の	日	水
ハ	の	日	の	日	流
筆	の	日	の	日	布

十夜

病のしを髪結了 孝の十夜は
 赤き紙 鏡まをりし十夜は
 ね風の舟まをりし十夜は
 千のしもゆきし十夜は
 西よありわたり 回しき十夜は
 舟のたりの陸を記しき十夜は
 遠くまをりし十夜は
 梅陰しきを過せし十夜は
 火を打ハ 昔も古も 十夜は
 甲の舟の舟し 燈も 十夜は
 浦くし 風の志らる 十夜は
 十會式や 儀を過し 十夜は

梅 花
 号 室
 若 竹
 小 燈 人
 梅 月
 定 時
 双 岳
 系 燈
 夫 聖
 十 早
 涼 花
 梅 袋

會式

里神楽 孫子つゝ 宮々々々 里神楽
 名残り 古きよの 舞々々々 里神楽
 人思ふよ 来進きき 里 十のつら
 里神楽 呼々々々 女のみつと 舞
 船のうら 何れも 舞々々々 里 十のつら
 里神楽の 海ぬき 舞々々々 納め 舞
 夜神楽も 多し 舞々々々 舞のおく
 夜々々々 月々々々 舞々々々 舞
 夜神楽の 舞々々々 舞々々々 舞
 舞の付了 舞々々々 舞々々々 舞
 小女女の 長裾 舞々々々 舞
 舞々々々 舞々々々 舞々々々 舞

三 泉
 雪 貞
 持 山
 秋 岸
 祖 師
 古 堂
 稔 市
 五 月
 舞 臺
 林 馬
 古 堂
 古 堂

里神楽

夜神楽

大師講

麦蔴

色一 日をおくく... 麦の... 生初る日の... 麦をまき... 山田や... 麦の... 新穂... 野崎...

文好 知者 毒空 志崎 喜池 卜早 梅月 青竹 土取 只雄 一 麦信

山茶花

山茶花... 山茶花... 山茶花... 山茶花... 山茶花... 山茶花... 山茶花... 山茶花... 山茶花... 山茶花...

厚侯 双岳 旅市 秋岸 乙良 杜松 系雄 唐藤 文起 飛竹 秋岸 為山

枇杷花

茶のちや十日さるも咲きしり	一
茶のちや十日さるも咲きしり	湖
茶のちや十日さるも咲きしり	波
茶のちや十日さるも咲きしり	石
茶のちや十日さるも咲きしり	水
茶のちや十日さるも咲きしり	舟
茶のちや十日さるも咲きしり	左
茶のちや十日さるも咲きしり	乙
茶のちや十日さるも咲きしり	共
茶のちや十日さるも咲きしり	月
茶のちや十日さるも咲きしり	文
茶のちや十日さるも咲きしり	意
茶のちや十日さるも咲きしり	希
茶のちや十日さるも咲きしり	考
茶のちや十日さるも咲きしり	松
茶のちや十日さるも咲きしり	双
茶のちや十日さるも咲きしり	岳
茶のちや十日さるも咲きしり	尾
茶のちや十日さるも咲きしり	村
茶のちや十日さるも咲きしり	菱
茶のちや十日さるも咲きしり	里
茶のちや十日さるも咲きしり	石
茶のちや十日さるも咲きしり	鳥

枯

遠甲も枯もく申すうきむうり	尤
おりの枯もく申すうきむうり	岬
おりの枯もく申すうきむうり	山
おりの枯もく申すうきむうり	林
おりの枯もく申すうきむうり	松
おりの枯もく申すうきむうり	子
おりの枯もく申すうきむうり	西
おりの枯もく申すうきむうり	吟
おりの枯もく申すうきむうり	成
おりの枯もく申すうきむうり	八
おりの枯もく申すうきむうり	卷
おりの枯もく申すうきむうり	一
おりの枯もく申すうきむうり	南
おりの枯もく申すうきむうり	彦
おりの枯もく申すうきむうり	七
おりの枯もく申すうきむうり	橋
おりの枯もく申すうきむうり	保
おりの枯もく申すうきむうり	久
おりの枯もく申すうきむうり	林
おりの枯もく申すうきむうり	鳥
おりの枯もく申すうきむうり	茶
おりの枯もく申すうきむうり	里

栢蓮

うきくしむしにふ山のそと
温水に根をくしむくも
けしは雨のふらふらうき
けしは雨のふらふらうき
けしは雨のふらふらうき
けしは雨のふらふらうき
けしは雨のふらふらうき
けしは雨のふらふらうき
けしは雨のふらふらうき
けしは雨のふらふらうき

栢 藤
智 幽
杜 山
不 影
子 根
ト 早
栢 二
河 根
石 川
希 舟

栢菊

石落花

八手花

栢花

おきおおハ志ありき けしは雨のふらふらうき
けしは雨のふらふらうき けしは雨のふらふらうき
けしは雨のふらふらうき けしは雨のふらふらうき
けしは雨のふらふらうき けしは雨のふらふらうき
けしは雨のふらふらうき けしは雨のふらふらうき
けしは雨のふらふらうき けしは雨のふらふらうき
けしは雨のふらふらうき けしは雨のふらふらうき
けしは雨のふらふらうき けしは雨のふらふらうき
けしは雨のふらふらうき けしは雨のふらふらうき

秋 岸
ト 岸
中 露
布 山
栢 山
文 意
栢 山
深 意
希 舟

寒菊

花はほろろのや	かほ良
寒菊や義ふくまら	かほ良
寒きくやれ	中葉女
寒ぢくやん	龍成
らん菊や	尾村
寒菊や雨	羊双
寒ぢくや	紅糸
寒菊や	標地
寒ぢくや	澤里
らんきくや	中葉
水仙や	石

水仙

大根引

まじら	地心
道分	秋女
野も	左乙
山坊	杜松
月のよ	子海
一樹	其新
日何	高信
〜	在志
花め	茶古
早咲	河高
たや梅	菱里
早咲のうめ	川澄

冬至梅

早梅

川をさるるを 鳴きつる舟のほし
らるる舟を 海にのぼるる舟
夕暮る 舟をさるる舟
船中の舟をさるる舟
鳴きつる舟をさるる舟
海をさるる舟をさるる舟
吹雪をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟

陸水
水遊
舟種
舟類
舟各
舟岳
舟空
舟月
舟例

冬 蠅

鶯子唄

温風のふれ 舟をさるる舟
舟の影のふれ 舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟
舟をさるる舟をさるる舟

一湖
舟水
舟旭
舟得
舟葦
舟候
舟月
舟舟
舟舟
舟岳
舟岳
舟岳

鴛鴦

夕の晴やあまきほしきり門儀也 土雲
 華ふきこや夕日ののちを巻 鹿 其影
 さく晴やあまきほしきり人の情なき 夢醒思
 さく晴やあまきほしきり誰かよる日さき 夢痛
 暮れゆく夕日さきあまきほしきり相 晴月
 さく晴やあまきほしきりあまきほしきり 友南
 さく晴やあまきほしきりあまきほしきり 葉夢
 船さきよあまきほしきりあまきほしきり 迎夜橋
 若く風あまきほしきりあまきほしきり 南溪
 夕の晴やあまきほしきりあまきほしきり 旭
 夕の晴やあまきほしきりあまきほしきり ち
 夕の晴やあまきほしきりあまきほしきり 糸

鴨

漸くあまきほしきりあまきほしきり 其之
 夕の晴やあまきほしきりあまきほしきり 相
 日よあまきほしきりあまきほしきり 友南
 夕の晴やあまきほしきりあまきほしきり 旭
 江の巻をよる夕の晴やあまきほしきり 未公
 鴨さきよあまきほしきりあまきほしきり 双岳
 柳さきよあまきほしきりあまきほしきり 木
 夕の晴やあまきほしきりあまきほしきり 難
 夕の晴やあまきほしきりあまきほしきり 芳古
 夕の晴やあまきほしきりあまきほしきり 芳古
 夕の晴やあまきほしきりあまきほしきり 由之
 夕の晴やあまきほしきりあまきほしきり 結女

未のくせうとちつ月のけり野の芭	児
波中をよみしつるきかやうのき	友
鴨ふくや火銃をけりし海一舟	呂
繪野の通るまらあり鹿の家根	嘉
鴨ふくや夕日の輝く山のふ	雪
うけつとほくちを鴨の原	龍
代への鴨ふくちも草よ月	と
をうとつ集りてし一帯のき	費
おのきとむいささるにの鴨	友
岸よりしるきを鴨の池をり	静
鴨ふくや只けりくとおの月	峰
鴨ふくや島おのりしを島内	荳

生海鼠

空のうぬ形ちををく生海鼠	元
ほくきり葉のふききとふふふ	名
岸端しをえりしゆりき生海鼠	島
雪のたけのけりぬ出きのあまこけ	征
きぬかきぬい風情のま海鼠	月
鴨ふくやうつと鴨も多の友	高
鴨ふくや入日といとく	久
うきむねや山風をきり戸一板	吳
嘉次の風を鴨ふくおやうれ	末
鴨ふくよききとらむの物とて	有
鴨ふくや徳景とてと廣中	か
んおく人のあきとてと汁	素

鰯

鯨

鰹

乾もろくろを打やに極汁 友相
 身もあつめ菜糖もあつめ汁 文藝
 枕打もろくろ月夜也に極汁 乙言
 飯汁や極子を足すに遠入る人 双岳
 雪の夜は夜をいそぐくゆく汁 縁市
 遠田の縁人飯を食むに辛り 素休
 飯糰食ふもあつめ夕アの夢の人 孝補
 人うはは口あつめ水あつめ汁 桑野
 風呂場うくゆのあつめ飯汁 白外
 飯糰のあつめとろくろくま 徳分
 あつめくはくは師も交せあつめ汁 香馬

冬鳥

年より子をとりくく雪戸あつめ鳥 怪因
 日影もあつめ水あつめあつめ鳥 水邊
 持のあつめ樹くくあつめあつめ鳥 粵川
 雪あつめあつめあつめあつめ鳥 久業
 雪も人あつめあつめあつめ鳥 肉能
 やつめあつめあつめあつめ鳥 己有
 雪あつめあつめあつめあつめ鳥 李補
 雪あつめあつめあつめあつめ鳥 唯楓
 雪あつめあつめあつめあつめ鳥 油屋
 日のあつめあつめあつめあつめ鳥 吉侯
 雪あつめあつめあつめあつめ鳥 紐紙
 雪あつめあつめあつめあつめ鳥 己有

冬鴈

夜興引

○俳諧發句八百題 全二冊 實價拾五錢 郵稅四錢

○俳諧發句九百題 全二冊 實價拾五錢 郵稅四錢

○俳諧發句千題集 全二冊 實價拾七錢 郵稅六錢

○俳諧發句千三百題 全二冊 實價拾七錢 郵稅六錢

○俳諧發句千五百題 全二冊 實價拾七錢 郵稅六錢

發兌書林 東京日本橋區上模町九番地 弘文館

明治二十四年九月 日求版
明治二十四年九月 日出版

印刷兼 發行者 平民 高塚兼太郎

京橋區新湊町四丁目 一番地寄留

發行元 弘文館

全國各書林

賣捌所 全國各書林

